

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

教職実践力高度化コース/  
小野瀬 雅人

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

##### ①授業内容

担当する科目の授業内容に、学生が能動的に思考を働かせるための、学ぶ方法の知識と具体的手立てを取り入れる。

##### ②授業方法

授業で説明した知識(例:児童生徒の思考の状態を理解する質問の仕方等)を実際に(「授業」VTR等で)活用する実習を取り入れる。

##### ③成績評価

レポートや筆記試験だけでなく、実際にできること(パフォーマンス)を評価する工夫を行う。

#### 2. 点検・評価

##### ①授業内容

前期「教科教授学習論」(150名)では、教科学習における子どもの誤概念を、児童生徒用課題を用いて体験的に理解できるよう指導した。後期「授業研究論」(86名)では、授業研究に関する講義の成果を踏まえ、教育実習生の授業について授業分析実習を行った。

##### ②授業方法

本授業の導入段階で児童生徒の理解を促す熟練教師の授業VTRを視聴させ、その特徴をまとめさせ、あとに続く本講義における学習目標を学生に設定させた。後期「授業研究論」(86名)では、授業研究に関する講義の成果を踏まえ、教育実習生の授業について授業分析実習を行った。

##### ②授業方法

前期「教科教授学習論」では、本授業の導入段階で児童生徒の理解を促す熟練教師の授業VTRを視聴させ、その特徴をまとめさせ、あとに続く本講義における学習目標を学生に設定させた。後期「授業研究論」では、「新採教員の1年」(NHK)という映像教材を視聴させ、「授業をすること」について考えをまとめる課題を与えた。

##### ③成績評価

前期「教科教授学習論」では、教育実習生による授業のVTRを視聴し、その授業の課題と改善点を、受講した講義内容を踏まえまとめる課題を与え、それを成績評価に反映させた。後期「授業研究論」では、過去の「よくわかった授業」を記述し、講義で説明した「よい教師の条件」のうち「よい説明」の視点から分析を行う課題を与え、それを成績に反映させた。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- 学部や教職大学院の学生が主体的に参加できる討論、実習、模擬授業を取り入れた授業を行う。
- 教職大学院の学生が修了後も、勤務校の課題や研究についての相談・支援に積極的に対応する。

#### 2. 点検・評価

- 教職大学院における「授業の理論と実践」(43名)では、授業づくりの理論の学習で討論を取り入れた他、教材作成実習を取り入れた。
- 同「教材教具の開発研究」(14名)では前半4回を担当し、教材教具の意義に関する講義及びロールプレイを取り入れ模擬シンポジウムを行った。
- 学部・大学院の卒業生を対象に7月27日(土)に研究会(14名参加)を開催し、授業改善のため「一般意味論」について講演を行った後、情報交換会を開催し、学校現場の課題と対策についての質疑応答を行った。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- 学習指導に関する学校心理学的支援についての研究成果を学会等で発表する。
- 学内外の研究助成の公募に申請し、学外資金を調達する。

#### 2. 点検・評価

- 学習指導に関する学校心理学的支援に関する研究成果を、日本教育心理学会第55回総会(法政大学:8月17日～19日)でのシンポジウム「授業研究の最前線」(JA11)、「学習指導研究と臨床支援研究間の交流可能性をさぐる」(JG08)において発表した他、著書『よくわかる学校心理学』(ミネルヴァ書房)、『スタンダード教育心理学』(サイエンス社)、論文「子どものよさを生かす教育とは」(「児童心理」金子書房)において公表した。また、科学研究の成果も踏まえ「「書写教育心理学」の構想と課題」と題する論文を本学紀要「鳴門教育大学研究紀要第29巻」(2014年3月)にまとめた。
- 学内外の研究助成に関しては、継続中の科研費研究(代表:鈴木慶子)において学外資金を調達した。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

○ 教職大学院の専任教員として、その運営と広報活動に努め、定員確保や教育内容の質保証に貢献する。

### 2. 点検・評価

○教職大学院の定員充足のため、学会参加時に現職教員に説明を行ったり、研修会等で教職大学院の内容の説明を行った。また、教員養成特別コースの定員充足に向け、関西外国語大学、追手門学院大学を訪問し、教職担当事務と教員に大学院の説明を行い、受験支援依頼を行った。

○教職大学院におけるP2院生の訪問指導の際、教職大学院への現職教員の派遣依頼を行った。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

○ 大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い、社会に貢献する。(社会貢献)

### 2. 点検・評価

○附属小学校の合同研究会(5月29日)、附属中学校の公開授業研究会(6月7日)に出席し、討議に参加した。

○徳島県看護協会において看護指導者と対象に「教育方法」の講義(6月12～14日)を行った。

○国立病院機構中国四国ブロック事務所主催の看護指導者講習会において「教育評価」の講義(8月30日)を行った。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

○兵庫教育大学連合大学院の主旨導教員としてD3学生1名、代行主旨導教員としてD2学生1名に対して博士論文指導を行った。その結果、D3学生については博士論文が完成し、3月7日開催の研究科教授会において合格判定となり、平成26年3月27日予定の学位授与式において博士(学校教育学)を授与される予定である。また、D2学生については、連大A論文誌3編の論文作成指導を行い、審査中となっている。